

# 豊川小だより

9月号

令和6年9月2日  
北区立豊川小学校  
校長 中村 順子

ホームページ  
QRコード



## 「Good winner , Good loser」

(よき勝者、よき敗者)

校長 中村 順子

パリオリンピックから始まり、夏の高校野球、そして先週から始まったパリパラリンピックと、この夏は様々なスポーツイベントが開催され、多くの人が釘付けになったことと思います。その中でも、パリオリンピックでのスケートボード種目は、私たち大人の発想を大きく変えた競技でした。

以前オリンピックに出場した選手のコメントに「自分たちは、同じ種目の競技者は皆ライバル、他の種目であってもライバルと教えられ、他の選手と話す機会など全くないほど、閉鎖された空間の中で競技に向き合うことを指導された」というものがあつたことを思い出しました。今回のオリンピックでのスケートボード種目の選手の姿勢は、それとは大きく異なるものでした。演技を終えた選手に対して、自分の得点に左右されることなく、周囲の選手が皆駆け寄ってきて抱き合い、称え合う姿が何度も映し出されていました。最終結果が出るとまた同じように笑顔で喜び合い、選手のコメントにも「一緒にがんばった仲間を称え合うことは当たり前のことです！」とありました。これぞまさしく、「Good winner , Good loser (よき勝者、よき敗者)」と言えると思います。またその行動が、スケートボード種目選手の若い世代によって、世界中が注目する中でとても自然な態度で行われていたことに、一介の観戦者である私も大変感銘を受けました。

高校野球でも同じようなことが多くありました。負けた学校の選手がヘッドスライディングの姿勢のまま起き上がれないでいると、勝った学校の選手は、その選手が立ち上がるまで、喜びを爆発させたい気持ちを抑え、固唾を呑んで見守っていました。また負けた学校は、勝利校の校歌を最後まで聞き届けた後に、惜しめない拍手を送っていました。この夏はあちこちで「よき勝者、よき敗者」を見ることができました。

\*

小学生は、スケートボード種目の選手や高校球児の下の世代です。令和の時代に生きる子供たちが、スポーツのみならず日頃の生活の中で、勝者だけが素晴らしいと捉えるのではなく、過ごした時間を共有するすべての仲間を大切にすることが当たり前になることを願わずにはられません。8月に実施した日光高原学園でも、6年生が同じ班の友達のことを思いやり、気配りをしながら3日間を過ごしていた姿が見られました。互いを称え尊重する雰囲気が、豊川小に着実に広がっていくよう、9月も子供たちに寄り添った教育を行ってまいります。

\*

7月下旬から、今後2年半にわたるリノベーション工事が開始されました。校庭のほとんどが工事エリアとなり、大勢の作業員の皆さんが、連日猛暑の中で作業をしてくださっています。工事のために「できない」ことはたくさんありますが、そのような中でも「何ができるか」ということに発想を切り替え、児童の安全を第一にしながら、今できるベストを大切にしたい教育活動を考えてまいります。保護者の皆様、近隣の皆様には多くのご心配やご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解の上、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 6年 日光高原学園

8月8日(木)から10日(土)、2泊3日の行程で日光高原学園が実施されました。今回の宿泊学習では、実行委員会の子供たちを中心に、「みんなで協力して、思い出に残る小学校生活最後の宿泊行事にしよう!」というスローガンを決めました。



宿舎では、室長を中心に声をかけ合って動く様子や、お世話になる方々に感謝の気持ちを伝えている姿が見られ、スローガンを意識して参加できていることが分かりました。

実施にあたり、各ご家庭で持ち物の準備や健康管理にご協力いただき、ありがとうございました。

(6年担任 森 純樹)

## ★生活リズムを整えるために★

夏休み明けの生活リズムを整えるために、毎日の生活についてのチェックカードを、9月2日(月)に配付します。

2日(月)～11日(水)まで記入し、12日(木)に学校に提出していただきます。

食事や睡眠などの状態を振り返ることで、お子さんが自分で体調管理ができるように、お声掛けをお願いします。

